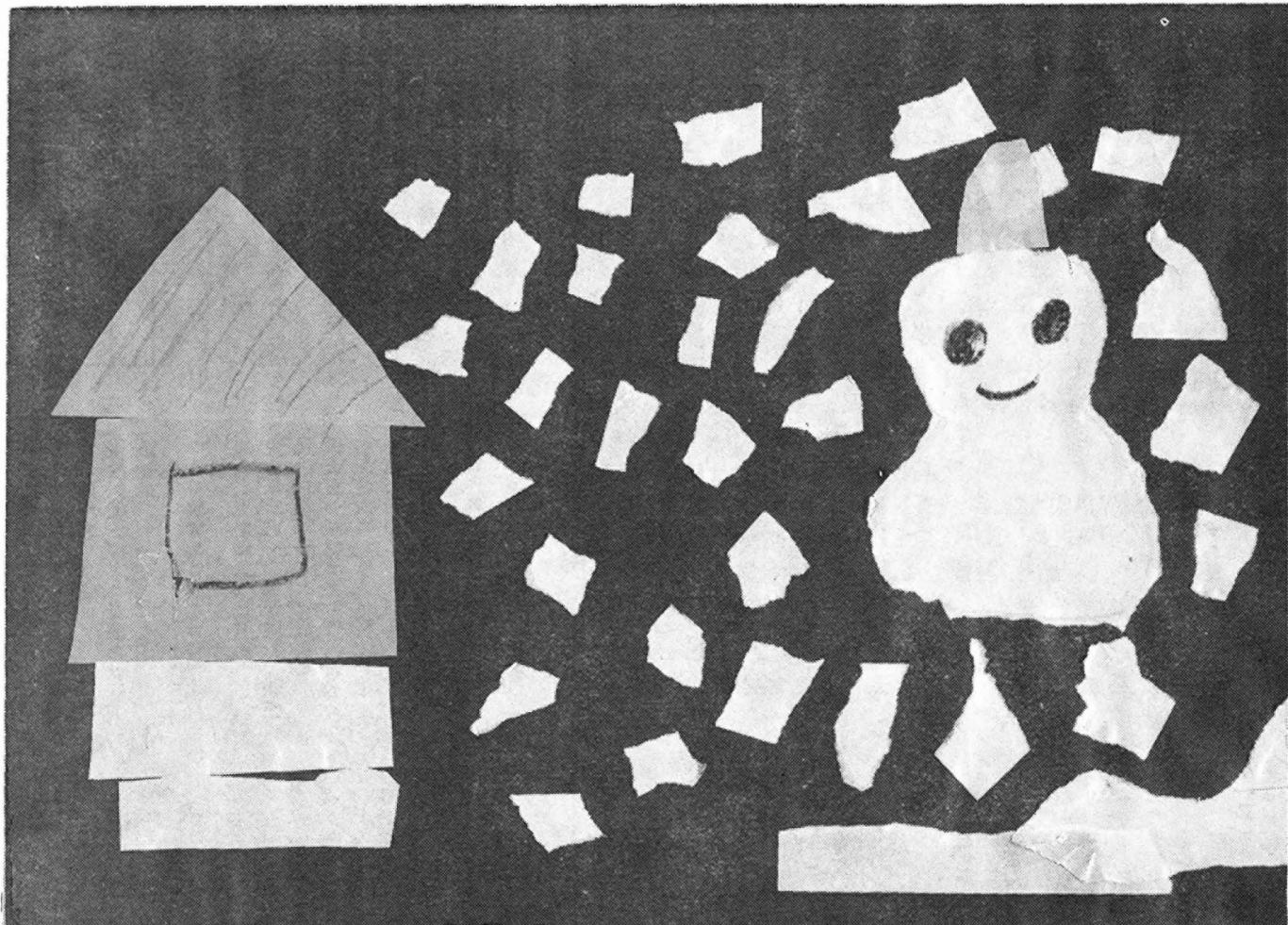




発行 五城目町役場 ☎ 01885 ② 2100 (代)  
018-17  
秋田県五城目町高崎字雀館下川原64の4  
編集 文書広報課  
印刷 潮東印刷所 ☎ 01885 ② 2430  
毎月 1日・15日発行 一部 35円



この切り絵は大川保育園児の作品です

児童画展子の教室は底冷えす 波郷

おあげします

## 春立つといえども

さざ波は立春の譜をひろげたり  
水巴

二月三日節分、四日は立春である。わが国には、北國と南国のはかに雪国があり、その雪国秋田も曆の上では立春となっている。  
外の景色や寒さは昨日までとさして変らず、むしろ冴えかかる場合が多いのであるが、それでも立春の声を聞くだけでも気持ちがほっとする。心の中に春が宿るのであろうか。

冴え返り冴え返りつつ春なれば  
泊雲

しかし、このまま順風満帆に春を迎えるとは思わない方がよいかも知れない。昭和四十八年から四十九年にかけての例がある。近年にない豪雪であった。四十九年には、立春ころの二月五日に「豪雪非常事態防災宣言」をして、対策本部を設けている。降雪量は二倍を記録し、除雪に動員させられた作業員三千人。家屋や農業等の施設、お寺、工場など倒壊したもの十五件二千二一三平方㍍、その損害額は二千三百万円を越えた。町部も農村部も道路という道路は雪の壁にかこまれ、雪の中から車を掘り出すために大変であった。馬場目川は格好の雪捨て場になり、水の流れる路も細々としたものになってしまった。明治二十三年開設した秋田気象観測所開所以来の記録であった。人々はあらためて雪の恐ろしさを知らされた冬でもあったわけである。

寒さをも主とせむと思ふなり  
波郷

総じて昭和二十年代から冬期間の降雪量は少なくなっている。それに対応した家屋の建て方もまた多くなったため、四十九年の被害を大きくしたとみられている。  
私たち、雪国であることの基本的なものの考え方は常に忘れてはならないし、それに対する準備もおさおさ怠つてはならないと思う。やはり私たちの里は寒さを主とした生活様式の組み立てを変えることはできないようだ。









